

# E C C 日 本 語 学 院

## 2020年度自己評価報告書

2021年6月1日  
ECC日本語学院名古屋校  
自己評価委員会

### 1. 教育理念

#### 日本語を通じて夢が実現できる学校

##### 【教育目標】

- 学習者の目標の実現をサポートします
  - ・進学希望者全員の進学を実現
    - 入学直後より、進学まで段階に応じた進学カウンセリングの実施
    - 日本留学試験の対策授業を実施
    - 総合科目、数学などの特別授業を実施
    - 面接・小論文の指導
  - ・就職希望者へのサポート
    - 就職準備講座・就職活動セミナーの実施
    - 就職カウンセリングの実施
  - ・日本語を使った次のキャリアの基礎づくり
    - JLPT 対策クラスを設け、学校全体で高い合格率を目指す
    - 学習期間1年を超える学生全員のCEFR B1 または JF スタンダード B1 以上の日本語力を養う。
- 学習意欲を高める学習環境を提供します
  - ・目的意識の高い学生たちがお互いを高めあう環境づくり
  - ・多国籍の学生が学ぶ環境で、日本語でのコミュニケーション力を強化
  - ・教授力の向上に余念のない指導体制
- 日本人との交流の場、コミュニケーションの機会を提供します
  - ・スタッフ・講師の教室内外での積極的な声掛け
  - ・日本語教師養成講座の受講生による「会話の会」の実施

##### 「総合教育機関 ECC 建学の理念」

本学は外国語教授を通じて、近代的なセンスと国際的な感覚をもった社会に実際に活躍でき得る有用な人材を育成しようとするものである。以て国際間の人々の交流と相互理解を促進し、世界の文化向上とその恒久平和樹立に寄与したい。

### 2 評価項目の達成及び取組状況

#### (1)教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1 学校の理念・教育目標は定められているか	④ 3 2 1
2 本年度の教育目標・計画は、定められているか	④ 3 2 1
3 学校の理念・教育目標は教職員に周知されているか	④ 3 2 1
4 学校の理念・教育目標を入学を検討している学生・保護者、留学仲介業者に告知する努力をしているか周知されているか	④ 3 2 1
5 学校の理念・教育目標実現のための教育が運営されたか	4 ③ 2 1

### 目的・理念・将来構想等の周知徹底について

学校の理念・教育目標について教職員に対し、講師便覧説明会などで繰り返し伝えており、周知徹底できていると言える。また「授業評価シート」を作成し、教員が理念・目標を意識した授業づくりができるよう、また授業が実行できているかをはかれるようにしている。

また学校紹介資料内にも、理念・教育目標を明記し、国内外の学生紹介機関や入学希望者に対しても、入学前に理念・目標を理解してもらえるようにしている。

### (2)学校組織

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
6 設置者・設置代表者・経営担当役員の適合性	④ 3 2 1
7 組織が適切に運営されているか	④ 3 2 1
8 校長・教務主任の適合性はあるか	④ 3 2 1
9 校長・教務主任・専任教員・非常勤教員の職務内容と責任基準は明確か	④ 3 2 1
10 教育目標達成のための知識と能力があるか	④ 3 2 1
11 生活指導担当者の職務内容と責任基準は明確か	④ 3 2 1
12 入管事務担当者の職務内容と責任基準は明確か	④ 3 2 1
13 取次申請者の配置	④ 3 2 1
14 教員の採用条件と雇用条件が明確である	④ 3 2 1
15 職員の採用条件と雇用条件が明確である	④ 3 2 1
16 教員の研修が行われている	4 ③ 2 1
17 職員の研修が行われている	4 ③ 2 1

### 学校組織について

告示校の条件に合う校長、生活指導担当者、入管事務担当者、教務主任、専任教員、非常勤教員を配置し、変更があれば入管に報告をしている。

### それぞれの職務内容について

教務・事務ともに業務分担表を作成し、各自の担当を明確にし、責任を持ち業務を行っている。教務主任・専任教員・非常勤教員の担当業務についても、学校作成の講師便覧に明記されている。

教員については、「授業評価シート」で当校の理念・教育目標に沿った授業ができているかをチェックし、授業オブザーブの際は、オブザーバーと教員がシートをもとに授業の振り返りをしている。

### (3)教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
18 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
19 修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
20 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
21 授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
22 成績評価・単位認定、進級・修了判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1

23 進学に対する指導体制はあるか	④ 3 2 1
24 告示校条件を満たす教員数を確保しているか	④ 3 2 1
25 告示校条件を満たす専任教員を確保しているか	④ 3 2 1
26 適切なクラス編成を行っているか	4 ③ 2 1
27 教員に対して、指導に必要な情報を伝達しているか	④ 3 2 1
28 修了証書授与の条件について、説明、明示されているか。	④ 3 2 1
29 授業にあたってはロールブックに出席状況、成績状況が記載されているか	④ 3 2 1
30 授業にあたって学生からの要望を聞く場を設けているか	4 ③ 2 1

### 教育活動

毎学期(年 4 回)開始 2 週間後に行う学生のカウンセリングでは、学生から日本語を学ぶ目的を詳細に聞き取りし、授業についての要望も聞く機会としている。その結果をもって、担当教員間のクラスミーティングで情報共有をし、授業の改善点、クラスの目標などについて話し合い、学生の要望に応える努力をしていることに加え、ティーチングの軌道修正の機会としている。

学生の出席に関しては、入学時から日々の生活指導を行っていることで、上級クラスになっても「休まないで勉強することが当然だ」という意識のもと、年間を通して平均出席率98%を保つことができている。このことが、成績、進学、就職へとつながっていると考えている。

また、これらの活動を教務・事務が一貫してサポートできるよう、学生情報管理システムを新たに導入し、入学時から日々の出席状況、アルバイト情報、定期試験や外部受験の結果などの一元管理を進めている。

### (4)成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
31 日本語能力試験の合格率の向上を図り、その結果を把握しているか	④ 3 2 1
32 進学希望者の全員進学を目指し、その結果を把握しているか	④ 3 2 1
33 日本留学試験の成績向上を図り、その結果を把握しているか	④ 3 2 1
34 その他学生が望む卒業後進路についてのサポート体制があるか	④ 3 2 1

### 成果

校外で実施される日本留学試験や日本語能力試験で成果を上げている。

4 月学期と、10 月学期には、試験対策のクラスを編成し、授業を行っている。その結果、留学試験では高得点獲得者が増え、全国平均を上回る結果となった。能力試験でも N2以上の合格率が国内外の受験者の認定率を上回っている。

進学希望者に対しては、入試前に志望理由書や面接の指導を行っており、進学希望者の進学率は 100%である。

また徐々に増えている就職希望者に対しては、日本での就職状況紹介、就職活動講座の開催、就職カウンセリングを実施している。また、上級レベルの学生を対象としたビジネス志向のカリキュラムに特化したクラスを設けたこともあり、就職を実現する学生が増加した。

### (5)学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
35 入学時に入国オリエンテーションを行い入管知識・日本の法律について指導しているか	④ 3 2 1

36 入学時に生活オリエンテーションを行い学生生活について指導をしているか	④ 3 2 1
37 進学・就職に関する担当者は決まっているか	④ 3 2 1
38 進学希望の学生に対して、進路決定までのながれについて説明がされている	④ 3 2 1
39 学生生活に関する相談体制は整備されているか	④ 3 2 1
40 学生の健康診断は定期的に行っているか	④ 3 2 1
41 新入生に対しての住宅の提供は十分に行われているか	④ 3 2 1
42 アルバイトに関する指導を行っているか	④ 3 2 1
43 交通事故等での保険等の手続き支援を行っているか	④ 3 2 1

### 35 36 入国オリエンテーション・入学オリエンテーション

入学時に入国オリエンテーションと入学オリエンテーションを実施している。

入国オリエンテーションでは、入国管理に関する知識を指導し、日本の法律のうち学生に直接関係あるものについて指導を行っている。オリエンテーション後は区役所に行き、在留カードの登録、健康保険の加入を共に行う。更に銀行に行き銀行口座の開設も一緒に行っている。

入学オリエンテーションでは、学校生活に関する規則などを指導している。遅刻・欠席の扱いなどのほか、災害時の行動についても指導している。

### 37 38 進学・就職支援体制

入学申請時より、進学希望者には日本での希望する進路について相談に乗っている。進学、就職それぞれの担当教員、職員を設定し、進学については、入学直後から母語での進学説明会を行い、進学実現までの流れを説明し、不安を解消するとともに目標設定を行わせている。また、学期ごとに行われるカウンセリングにおいても、学生の進路を確認し、アドバイスをを行っている。

就職希望者にはセミナーを実施し、就職市場の現状や、実際の活動手順などを紹介している。学生が希望する進路への進学・就職を果すまでサポートし、成果をあげている。

### 40 健康診断の実施

入学後1ヶ月以内に健康診断を実施、さらにその1年後にも実施している。

### (6)教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
44 校舎校地は告示校の条件を満たしている	④ 3 2 1
45 教室は、学習に適した環境である。	4 ③ 2 1
46 自習室が備わっている	④ 3 2 1
47 学生用の図書が整備されている	4 ③ 2 1
48 防災に対する体制は、整備されているか	④ 3 2 1
49 避難訓練は定期的に行われているか	④ 3 2 1
50 学校近隣の避難所などの情報提供は行なわれているか	④ 3 2 1

### 48 49 50 防災

入学時のオリエンテーションで、地震他の災害時についての避難行動についての説明を行っている。学校近隣の避難所への地図もオリエンテーションにて配布している。年に一度は全校での防災訓練を行っている。

また危機管理マニュアルを随時更新し、緊急時の職員の動き、及び学生、保護者への対応を明確化した。

## (7)学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
51 理念・教育目標に沿った学生の受け入れ方針を決め、募集活動を行なっているか	④ 3 2 1
52 入学希望者に学校について、入学手続きについての情報が提供されているか	④ 3 2 1
53 入学選考料・入学金・学費についての金額、納付時期について説明がされている	④ 3 2 1
54 学費の返却規定が定められ、募集要項・ホームページ等に記載されている	④ 3 2 1
55 海外のエージェントの選択にあたっては慎重に行なわれているか	④ 3 2 1
56 入学選考にあたっては、選考方法が定められているか	④ 3 2 1
57 提出された書類は慎重に審査を行なっているか	④ 3 2 1

### 51～55 学生募集活動について

申請者に対しては、全員現地またはビデオ通話を用いて、面接を行っている。また別途オンライン説明会も実施し、応募者に直接学校の理念・教育目標を伝える機会を設け、当校について理解・納得した上で入学をしてもらうよう努めている。また入国後、スムーズに授業が受けられるよう、日本語レベルの確認や入学までに必要な日本語学習についてアドバイスを行っている。

国内外の学生紹介機関に対しては、年に1回程度訪問、又はオンライン説明会をし、理念・教育目標や入学条件などを直接説明するようにしている。

学生の受け入れについては、国内外の学生紹介機関の選択を含め、慎重に審査している。当校の運営方針に理解のあることを優先し、当然ながら学生自身の条件が当校の条件に当てはまらなければ、学生紹介機関の推薦があっても受け入れは行わない。その結果、在留資格認定証明書の交付率は非常によい。

### 53 学納金について

入学希望者や保護者に対し、募集要項やその説明の機会を通じて学費や諸経費の説明を行っている。

## (8)入国・在留関係に関する指導及び支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
58 入管業務担当者は、研修に出席すること等により新しい情報を取得している。	④ 3 2 1
59 入管法上の留意点について学生に指導している	④ 3 2 1
60 在留に関する情報を学生に伝達している	④ 3 2 1
61 新入生が速やかに入学後の在留カード住所登録を行なうように指導している	④ 3 2 1
62 新入生が速やかに健康保険に加入するように指導している	④ 3 2 1
63 帰国を控えた学生に帰国時の手続きについて指導をしている。	④ 3 2 1
64 過去3年間、不法在留者、資格活動違反者を発生させていない。	④ 3 2 1

### 在留管理についての指導

在留資格認定証明書が交付された時点で、入国後行わなければならないことを知らせている。入国後は入国オリエンテーションを実施し、入管法上の手続きについて指導している。学校職員が伴って在留カードの住所登録、健康保険の加入、銀行口座の開設を行っている。資格外活動についての注意も行き、活動状況を記録し、保管している。

1年後のビザの更新時には、経費支弁者からの経費支弁書に記載されたとおりの送金があったのか確認している。学費支払いの滞りはない。日本語学習終了時の手続きや、進学時の手続きについても説明会を行い、入管法に沿った手続きに漏れが無いように最大限の指導に努めている。

家庭の事情や、体調不良のため、途中退学となった学生については、出国確認を行い、告示校規定に従い、退学の報告を名古屋出入国在留管理局に行っている。

#### (9)財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
65 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1
66 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1
67 財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1
68 財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1

#### 財務状況全般

中長期的に安定した経営基盤を構築するために、経費削減を図る一方で、設備の充実並びに教務内容の充実を図りバランスのとれた経営を行っている。財務状況については、会計上必要な各種財務資料は勿論、経営状況を把握するための各種数値が適時引用可能となる基幹システムを整備し、運営基盤を支えている。予算・収支については、取締役会で承認された中期計画、年度計画に基づき執行している。毎月実績ベースと比較し、妥当に執行されるように確認しながら行われている。内部監査室及び監査役により会計監査が行われており、取締役会・株主総会にて報告している。

#### (10)法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
69 関係法令等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
70 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1
71 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1
72 自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1

#### 法令等の遵守

ECCグループ全員が共有すべき普遍価値として「コンプライアンス・ガイドライン」が定められ、それらを誠実に実行するための行動基準として「役員・従業員行動規範」が明文化されている。また、役員をメンバーとする「コンプライアンス委員会」、「リスク管理委員会」、「情報セキュリティ委員会」も設置し、法律の専門家を顧問として配置するなど、法令等を遵守する体制を構築している。また前年度より日本語学院にもコンプライアンス担当者を定め、教務室での一時相談窓口を設けている。

個人情報の取り扱いについては、「個人情報保護に関する基本方針」「情報セキュリティ規程」「個人情報管理規程」を策定し、情報流出等を防止する厳重なセキュリティ対策を維持するとともに、個人情報取扱マニュアルをもとにした従業員への教育を継続していく。

#### (11)地域貢献・社会貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
73 日本語教育機関の施設を地域貢献の場として活用しているか	4 ③ 2 1
74 公開講座や文化活動の実施などの取組を行っているか	4 ③ 2 1
75 学生と地域がつながる文化活動の機会を設けているか	4 ③ 2 1

## 地域貢献・社会貢献

ECC が総合教育機関であるということを活かした語学関連のイベントを主催し、その様子を発信している。また、こうしたイベントや日々の授業から得られた内容を新たなイベントやセミナーの題材として、その枠を広げていくよう努めている。学生においては地域住民とスポーツや日本文化を通じて交流できる機会としている。

## 3. 2020 年度の重点目標の振り返り

1. 進学、就職、語学研修など様々な目的に対応する「社会とつながる日本語」の提供
  - ・各レベルの(CEFR や JF スタンドアードを参考にした) can-do をより意識したカリキュラムや評価方法を制定し、実践した。
  - ・日本留学試験や、日本語能力試験以外の試験の受験も促し、フォローしていくことで、様々な進路希望に対応できるようにした。
  - ・個々の学生に対応した就職支援を実施し、コロナ禍において、過去最高の就職者数を達成することができた。また、特定技能においては、社内の就職支援部署と連携し、支援を行った。
2. 学校理念・教育目標に沿った授業の展開
  - ・講師便覧説明会のみならず、定期的実施しているレベル別ミーティングでも学校理念・教育目標を確認し、引き続き学校理念・教育目標の周知徹底に努めた。
  - ・昨年同様、毎学期授業オブザーブを実施し、教育目標に沿った授業が実現できているかをオブザーバーと講師が確認する場を設けた。
  - ・学内セミナーや勉強会を実施し、講師へも学びの場を提供した。特にオンライン授業化に伴う ICT についての勉強会を継続的に行った。
  - ・定期的に学生アンケートを実施し、学校や授業に関する学生の要望を把握し、目標に合った教育を提供できているかの検証を始めた。
3. 授業の ICT 化
  - ・オンラインストレージや、オンライン学習ツールなどを積極的に活用し、教務全体で共有化した。ICT 化を進めることで、コロナ禍における入国待ち、入国遅れの学生、また防疫対策としての自宅待機生に対し、オンラインによる学びの場を継続的に提供することができた。
4. 地域社会との交流
  - ・COVID-19 感染影響により、対面での交流機会は減少したが、小学校との動画や手紙のやり取りによる交流会を実施した。
5. 告示基準を遵守し、信頼される学校運営を目指した取り組み
  - ・2020 年 10 月期から新規コース設定へ変更、承認取得済。
  - ・予め学習目的、期間に応じたコースを紹介し、募集を行っている。
  - ・学生情報管理システムを活用した定期報告を実施。

## 4. 2021 年度に重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1. 進学、就職、語学研修など様々な目的に対応する「社会とつながる日本語」の提供
  - ・初級から順次進めてきた、文型中心のテキストから課題解決型のテキストへの移行を中級レベルまで展開する。
  - ・日本留学試験や、日本語能力試験以外の試験の受験を促し、フォローしていくことで、様々な進路希望に対応できるように継続的に支援していく。
  - ・特定技能での就労に対応した就職支援の継続及び、試験対策を提供する。
  - ・ビジネススキルに特化した対策講座を提供する。

## 2. 学校理念・教育目標に沿った授業の展開

- ・講師便覧及び、定期的実施しているレベル別ミーティングでも学校理念・教育目標を確認し、全ての講師、スタッフに引き続き学校理念・教育目標の周知徹底に努める。
- ・昨年同様、毎学期授業オブザーブを実施し、教育目標に沿った授業が実現できているかをオブザーバーと講師が確認する場を設ける。
- ・定期的に学生アンケートを実施し、その結果を分析、検証し、適時改善を図る。アンケート内容についても、学期ごとに検証、見直しを行い、より正しい現状を把握し、改善できるよう努める。

## 3. 講師研修の充実化

- ・学内セミナーや勉強会を継続的に実施し、講師へも学びの場を提供する。  
特に、著作権や ICT 教育の分野に注力し、講師の知識とスキルの標準化を図っていく。

## 4. 授業の ICT 化

- ・前期に活用したオンラインストレージや、オンライン学習ツールなどをさらに体系的に整備し、ICT 化を定着させることで、状況に応じていつでも提供する授業の手法を選択できる体制にしておく。

## 5. 地域社会との交流拡大

- ・対面以外でのオンライン交流会などの手法や対象を増やし、学生が日本社会に接する機会、地域社会に貢献する機会を定期的に設け、継続する。

## 6. 告示基準を遵守し、信頼される学校運営を目指した取り組み

- ・新しいコース設定に準じた学習到達目標及び成果の可視化し、及び進度に沿った指導を実施することで、目標到達率 100%を目指す。
- ・入管オンラインシステムを活用した定期報告の実施。



**2020年度**

**課程修了者の日本語能力習得状況等**

作成年月日:2021年6月16日

日本語教育機関名: ECC日本語学院 名古屋校

設置者名: 株式会社 ECC

基準該当者合計数(実人数)	33名
対象期間:	2020年4月~2021年3月
課程修了者数	36名
退学者:	0名

基準該当者の各内訳	総合コース
a. 大学等への進学者の数 ※我が国での進学に限り、非正規生は除く。	14
b. 入管法別表第一の一の表若しくは二の表の上欄の在留資格 (外交、公用及び技能実習を除く。)への変更を許可された者の数	6
c. CEFRのA2相当以上のレベルであることが試験その他の評価 方法により証明されている者の数。	13